

<テーマ> 図や式を根拠として説明する言語活動を取り入れた取組

(白石市立白石第一小学校)

1 実施単元

『全体を決めて』 [東京書籍 6年 p151~152]

2 単元のねらい

図や表に表すよさを認め、既習の考えを活用して、問題を解決する能力を高める。

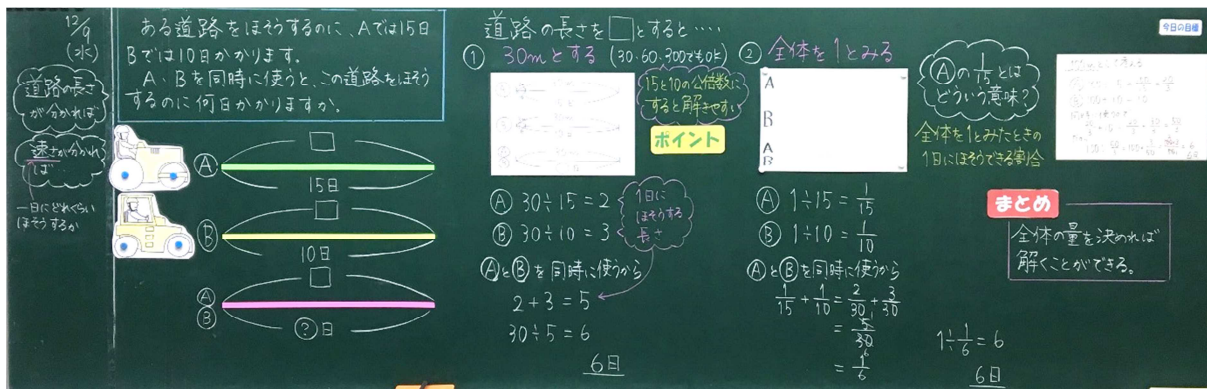
3 指導改善の手立て

答えの見通しをもたせる

- ・ある仕事を2台の機械で行ったときに、「1台で行ったときよりも日数はかからない」ことを全体で確認してから進める。

多様な考えが出るように発問する

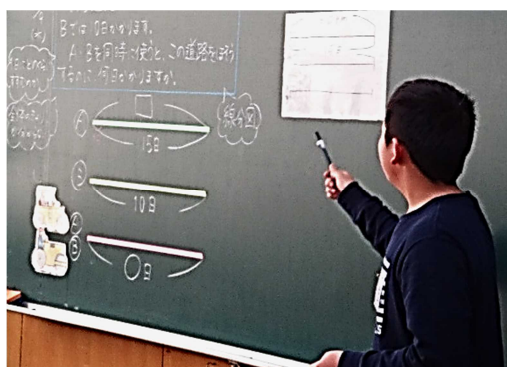
- ・自力解決の場面では、「全体の長さを最小公倍数で仮定する考え」と「全体を1とみる考え」のどちらの考えも出るような発問をする。
- ・集団解決の場面では、自分の考えを発表するのではなく、友達のことを読み取り、発表させるようにする。その際、全体をどのように決めて考えたのか確認し、2つの考えの共通点についての気づきを促す。



(図 : 実際の板書例)

4 指導の実際

ある児童が考えた解き方を他の児童に説明させたことで、自力解決でつまづいていた「AとBの機械を同時に使ったときの1日あたりの仕事量」を理解させることができた。(図) また、「全体の長さを最小公倍数で仮定する考え」と「全体を1とみる考え」の両方を1時間で扱ったことで、「全体を決めれば解ける」「どちらの解き方も式の構造は同じ」という共通点を見つけた児童が多かった。



(図 : 友達の考えを説明する児童の様子)